

WWLコンソーシアム構築支援事業
令和4年度 成果報告会

長崎県立長崎東中学校・高等学校 事業成果報告及び今後の実施計画



目次

- 1 事業構想概要
- 2 カリキュラム開発
- 3 国内・海外フィールドワーク
- 4 高校生国際平和会議
- 5 教員研修
- 6 研究開発成果の普及・評価
- 7 令和5年度以降の計画

目次

- 1 事業構想概要**
- 2 カリキュラム開発
- 3 国内・海外フィールドワーク
- 4 高校生国際平和会議
- 5 教員研修
- 6 研究開発成果の普及・評価
- 7 令和5年度以降の計画

1 事業構想概要

【長崎県立長崎東中学校・高等学校 概要】

1884(明治17)年	県立長崎中学校開校
1912(明治45)年	県立長崎高等女学校開校
1922(大正11)年	市立高等女学校開校
1923(大正12)年	県立瓊浦中学校開校
1948(昭和23)年	学制改革により改称 東西に統廃合 長崎市西山町に開校
1976(昭和51)年	現在地(長崎市立山)に移転
2004(平成16)年	長崎東中学校開校
2015(平成27)年	国際科設置
2018(平成30)年	SGH (スーパーグローバルハイスクール) に指定
2020(令和 2)年	創立70周年記念式典挙行 WWL(ワールド・ワイド・ラーニング) コンソーシアム構築支援事業拠点校に指定

「ともによき世を創る」



旧制長崎中学校出身 文学者山本健吉氏の言葉

学級数 中学 1 学年 3 学級 計 9 学級・高校 1 学年 7 学級 計21学級、計30学級
在籍数 中学 359名・高校 806名、計1,165名 (令和4年5月1日現在)

「世界の平和と共生」に貢献するイノベティブなグローバル人材の育成

【課題発見・解決力】主体的に課題に向き合い発見・解決する力

【創造力】学んだことを活用し、新たな価値を創造する力

【情報分析・活用力】物事を多角的に捉え、情報を選択・分析・活用する力

【自己表現力】考え・意見を発信し、他者に影響を与える力

【協働性】多様な人々対話や議論を通じて協働する姿勢

【学ぶ意欲】学問に関心を持ち、自ら高度な学びに向かう姿勢

【地球市民性】世界平和を希求し、持続可能社会に貢献する姿勢

協働・共創でイノベーションを — ながさきクロスロードプロジェクトの展開



管理機関：長崎県教育委員会
ALネットワーク運営組織
運営指導委員会
事業検証委員会



拠点校：長崎東中学校・高等学校

「ともによき世を創る」Co-creating a Better Society

- ・多様な海外フィールドワーク
- ・同窓会の基金による海外派遣
- ・中学校段階からの体系的探究活動
- ・SDGsの視点を取り入れた授業展開
- ・文理の枠を超えたカリキュラム編成
- ・第2外国語（中国語）の開設
- ・アジア架け橋PJ等による留学生受入
- ・高校生国際会議の開催



歴史×未来
環境×経済
アジア×欧米

自然×社会
都市部×離島
教育×地域創生



海外連携校・協力機関

米国、カナダ、オランダ、シンガポール、マレーシア、ベトナム、中国、韓国等

- ・共同研究、フィールドワーク
- ・WEB会議等による意見交換
- ・高校生国際会議への参加

海外の若者との議論と協働

企業・NPO等

ハウステンボス、ジャパネットHD、十八親和銀行、長崎新聞社、三菱重工業協和機電、九州教具、JICA九州、地域循環研究所、にこにこ一般財団等

- ・地域課題からグローバル課題へ
- ・社会と繋がる多様な学びの提供
- ・地域資源や卒業生等の活用

高校×企業で社会に貢献

国内大学

長崎大学
長崎県立大
長崎純心大
大阪府立大

- ・大学教育の先取り履修
- ・大学と協働する課題研究
- ・留学生・大学（院）生の活用
- ・公開講座、オープンラボ
- ・高校生国際会議への協力

高度な学びを提供するシステム構築

事業連携校

SSH校

長崎西高、長崎南高、大村高
・文理の枠を超えた研究成果の共有

併設型中高一貫校

佐世保北中高、諫早中高
・中高を接続する探究モデル構築

離島留学実施校

対馬高、杵高
・離島をフィールドにした探究活動
・遠隔システムの活用

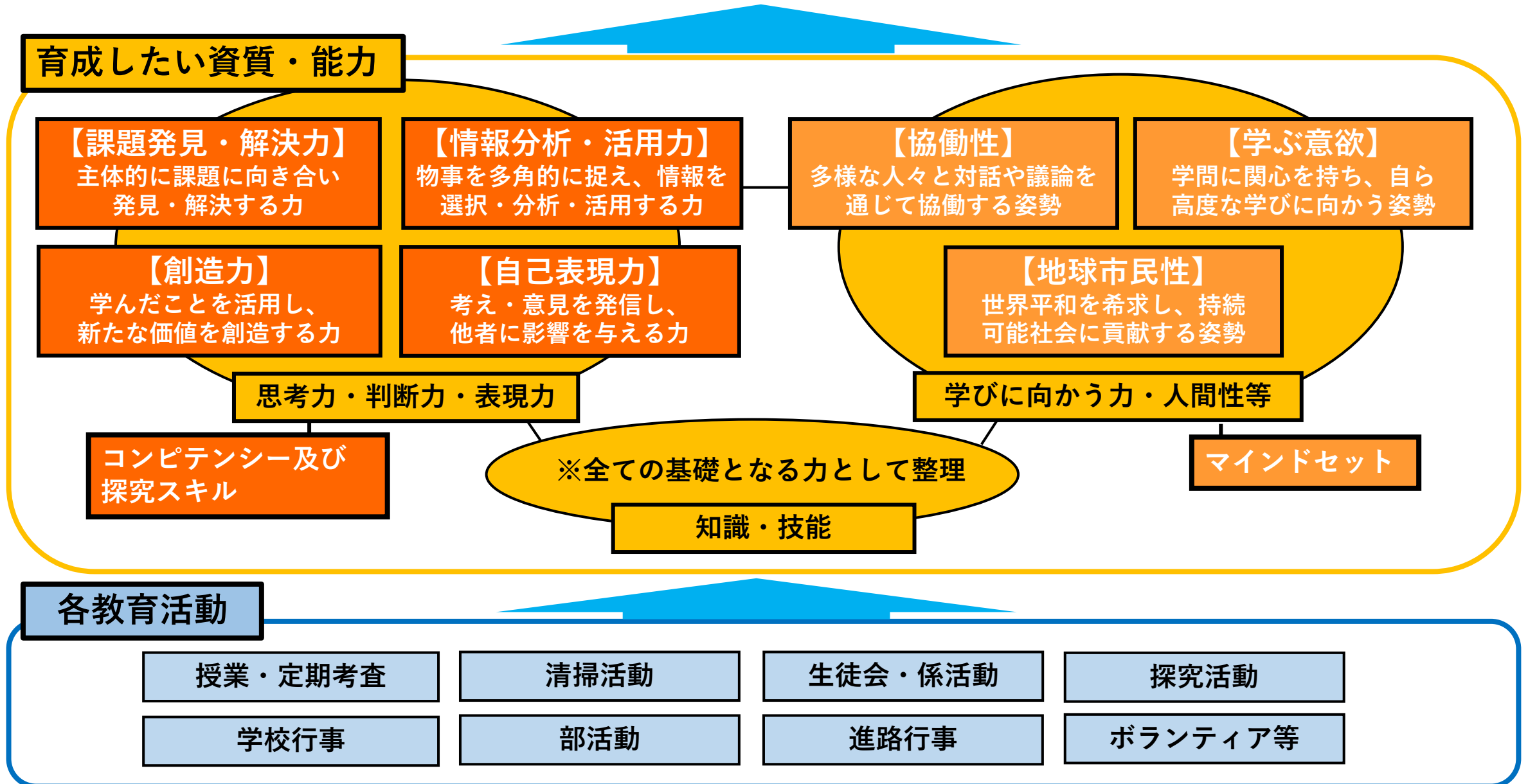
県外連携校

舟入高、広島女学院中高
三島北高、立命館宇治中高
・共同フィールドワーク
・研究成果の共有

探究の広がり と 深化 国際会議の共同開催

1 事業構想概要

「世界の平和と共生」に貢献するイノベティブなグローバル人材の育成



目次

- 1 事業構想概要
- 2 カリキュラム開発**
- 3 国内・海外フィールドワーク
- 4 高校生国際平和会議
- 5 教員研修
- 6 研究開発成果の普及・評価
- 7 令和5年度以降の計画

2 カリキュラム開発

(1) 高大接続

【長崎大学】

① 拠点校事業（長崎県全体への普及）

拠点校が事務局となり県内高校と長崎大学との連絡調整を実施し高大接続を行う。
令和4年度は県内14校、生徒69名が参加。8月に下記の講座を実施。

- ・『**高大連携事業に係る科目等履修生を対象とした授業科目**』
「数学への誘い～数学を楽しもう～」参加生徒5名、単位認定5名
- ・『**高校生公開講座**』2講座、参加生徒21名
- ・『**オープンラボ**』11講座、参加生徒43名

② 校内の事業

- ・ **出前講座**…9学部（多文化・経済・教育・医・保健・工・環境・水産・情報）
拠点校に教授陣を招聘し講座を実施、多様で高度な学びを体験する。
令和4年度は12講座を実施。高校2年生278名が受講。
- ・ **生徒の探究活動の指導・助言**…研究室訪問、インタビュー、質疑応答。

【広島大学】

令和4年度に**広島大学WWLコンソーシアム構築支援事業に連携校として加盟**。

令和4年度はオンラインセミナーを高1・2希望者計220名が受講。

※令和5年度は履修・単位認定を実施予定。

2 カリキュラム開発

(2)SDGsを基盤とした文理融合型の学び ①中学校からの体系的な探究活動

高3	国際社会に発信する	<ul style="list-style-type: none">・ 高校生国際平和会議…国内外の高校生と世界課題について協議・ 高校生平和共同宣言…多言語・ 探究ピア・サポート…下級生の探究学習の指導・助言・ 主体的な学習の時間（E-time）…週2コマ
高2	SDGsを探究する	<ul style="list-style-type: none">・ SDGs探究（学年内でチームor個人）…文理融合でチーム編成・ WWL探究発表会…英語or日本語・ 主体的な学習の時間（E-time）…週2コマ
高1	SDGsで協働する	<ul style="list-style-type: none">・ SDGs探究（クラス内チーム）…SDGsをテーマに探究学習・ クラス内発表会…日本語・ IGR（Integrated Global Research）…文理融合型の学び・ 探究ベーシック…SDGsを組み込んだ授業
中3	SDGsを考える	<ul style="list-style-type: none">・ SDGs探究（個人）…SDGsをテーマに探究学習・ SDGsレポート…探究内容を記述し発表・ 附属中学校合同探究発表会…連携校の佐世保北高附属中、諫早高附属中と開催
中2	SDGsを知る	<ul style="list-style-type: none">・ 平和壁新聞…「平和を阻むもの」をテーマに新聞作成・ SDGsリーフレット作成…世界課題について調べてまとめる
中1	長崎を知る	<ul style="list-style-type: none">・ 平和フィールドワーク…長崎市内の被爆遺構を巡る・ 新書レビュー…好きな新書を読了後、ブックレビュー

2 カリキュラム開発

(2)SDGsを基盤とした文理融合型の学び

②IGR (Integrated Global Research/統合型グローバル探究)

- ・対象は高校1年生、週1単位。
- ・文理融合型の学びにより、**探究学習の基礎となる教養やスキル**を身に付ける。
SDGsに関連した学びや、大学教授・企業人の講義などを実施。

【例】ワールド・ワイド・チャンネル

- ・SDGsをテーマにしたハイブリッド講演会、令和4年度は6月に実施
- ・拠点校から県内各校へオンライン配信
- ・講演 NPO法人Red Wood Japan、JICA長崎、Rikkei、協和機電、地域循環研究所、e-Education、熱帯医学研究所、日本トイレ協会、ハウステンボス、ジャパネットホールディングス、三菱重工業、九州教具、イシマル、子育ての家、京セラ、京都大学、神戸大学、九州大学、長崎大学、長崎県立大学、長崎純心大学、桃山学院大学 等



2 カリキュラム開発

(2)SDGsを基盤とした文理融合型の学び

③探究ベーシック

- ・対象は高校1年生。
- ・各教科・科目で**SDGsを踏まえた授業展開**を系統的に実施（年間シラバス作成）

[例]

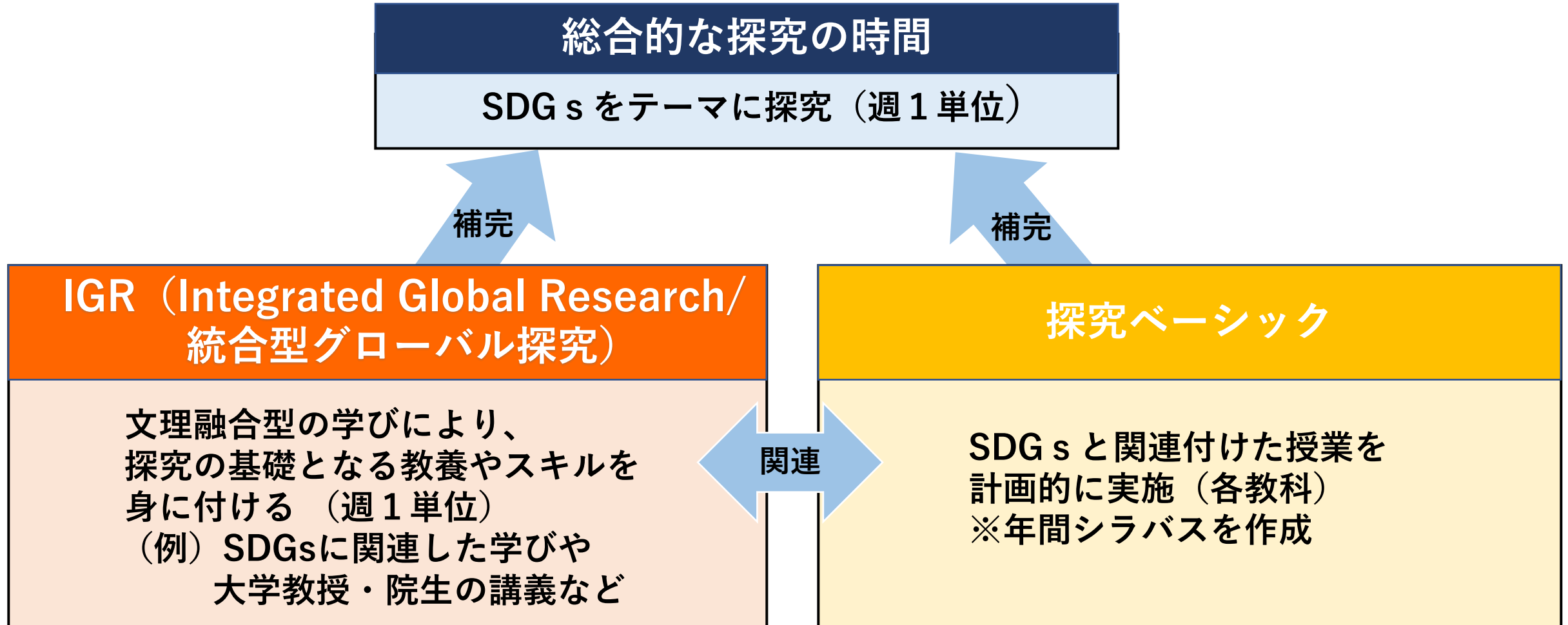
教科	内容	SDGs
国語	『羅生門』（芥川龍之介）＋『貧困は自己責任なのか』（湯浅誠）を読み、登場人物の状況を分析、救済策を考察	1・2・3・4 10・16
数学	数学Ⅰ（論理と集合、2次関数）の中で、協働して目標を達成するプロセスを経験	17
化学基礎	化学反応の量的関係と環境問題の考察（日本の天然ガス消費による二酸化炭素の排出量、海の生物に与える影響）	13・14
歴史総合	近代化・大衆化・グローバル化をテーマに、国家の形成や帝国主義に対する民衆の行動について俯瞰して捉える	1・10・16
家庭	エコクッキングを取り入れた弁当献立を考える	2・3・13
保健	感染症について学ぶ（種類、予防、性感染症、エイズ）	3
英語	CROWN Communication English I Lesson5 Food Bank	2

2 カリキュラム開発

(2)SDGsを基盤とした文理融合型の学び

④IGRと探究ベーシックの位置付け

※IGRで探究基礎力を培い、探究ベーシックで探究と教科学習との連動制、相関性を高める。

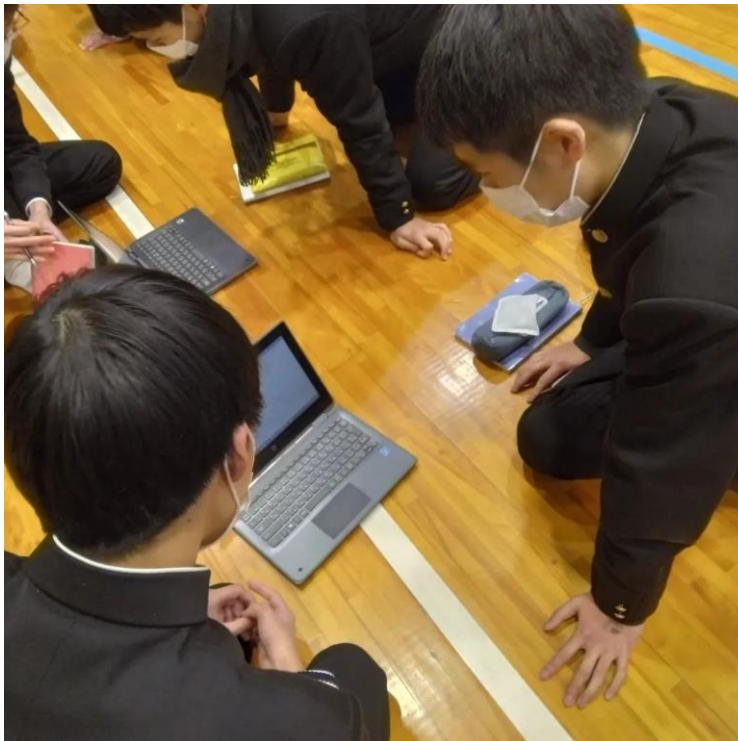


2 カリキュラム開発

(2)SDGsを基盤とした文理融合型の学び

⑤探究ピア・サポート

- ・「生徒自身による探究の自走化」を目標に、高校生が中学生の探究活動について指導・助言、激励を行う取り組み。
- ・令和4年度は高校2年生約200名と中学3年生約120名を対象に実施。
- ・令和5年度は年度当初の導入期に力点を置き系統立てて推進する。



2 カリキュラム開発

(2)SDGsを基盤とした文理融合型の学び

⑥自主的な学習の時間（E-time）

- ・対象は高校2・3年生。（週2単位）
- ・週2コマを生徒が自由に学べる時間として設定。（探究学習、教科学習等）

[例] 高2
国際科文系
時間割

	月	火	水	木	金
1	選択※	総合英語	現代文B	地学基礎	日本史A
2	古典	世界史B	世界史B	時事英語	体育
3	生物基礎	地学基礎	英語表現	選択※	数学
4	世界史B	現代文B	数学	選択※	古典
5	数学	数学	生物基礎	古典	選択※
6	日本史A	体育	探究	数学	英語
7	総合英語	LHR	E-time	保健	E-time

※「選択」は
学校設定科目の
「国語探究」
「数学探究」
「英語探究」
「中国語」から
2科目選択し、
各2単位受講。

2 カリキュラム開発

(2)SDGsを基盤とした文理融合型の学び

⑦学校設定科目

- ・対象は高校2、3年生。
- ・探究と教科学習との連動性、相関性を高める。

【学校設定科目一覧】



科目	学年	内容
国語探究	高2	豊かな日本語表現を味わい、日本の歴史・文化、日本人のものの考え方について考え、表現する。特に、宮沢賢治の作品を基盤に「幸福とは何か」を班で協働して探究する。
数学探究	高2	個別思考の場と協働的な検討の場を併用し、思考力・問題解決能力を養う。授業支援アプリの「MetaMoji Class Room」を活用して、班で協働して解法を探る。
英語探究	高2	最新の英語ニュースを通じてグローバル課題についての知識や理解を深め、課題の原因や解決策について、英語で思考しプレゼンテーションやディスカッション、ディベートなどを行い表現力を養う。また、外国人講師によるオンライン英会話を行う。（長崎県英語教育支援事業）
中国語	高2	中国語による簡単な会話や表現、その基礎となる簡体字に対する理解や発音（ピンイン・声調）を習得し、基礎的な文法・語彙を身に付ける。福建省培元中学校とオンライン交流を行う。
日本語探究	高3	日本語の論理的な構造や「書き言葉」の使い方について学ぶ。また、論理的文章や文学的文章のテーマをもとに小論文を書き、相互批評を行って、より深い考察へとつなげる。
地歴特論	高3	世界の一体化を説明する理論を取り上げながら、今日のグローバル化の起源と本質について理解を深める。班でテーマを決めディスカッションを行い、考察を深める。
サイエンス特論	高2 高3	科学技術の発展やグローバル課題の解決に向けて、科学的な思考力や問題解決能力を育成する。実験結果について数学的な統計処理を行い、実験の方法・結果・考察を班でまとめ発表する。

目次

- 1 事業構想概要
- 2 カリキュラム開発
- 3 国内・海外フィールドワーク**
- 4 高校生国際平和会議
- 5 教員研修
- 6 研究開発成果の普及・評価
- 7 令和5年度以降の計画

3 国内・海外フィールドワーク

(1) 国内フィールドワーク

- ・対象は高校1、2年生。
- ・生徒の探究テーマを踏まえ各チームごとに実施。
- ・コロナ禍により長崎県内を中心にオンラインも含め実施。
- ・令和2年度よりこれまで300以上の外部機関と連携。



[例]

県外

【**広島市**】 広島平和フィールドワーク（平和遺構巡検、原爆資料館、被爆者講演、広島市立舟入との平和交流、広島女学院主催Peace Forum参加、西城農業高校、広島高校、吉田高校、尾道北高校、尾道東高校との合同平和探究）

【**別府市**】 別府平和フィールドワーク（ウクライナ避難民支援団体NPO法人Beautiful World、別府市役所防災危機管理課）等

県内

【**壱岐市**】 壱岐市役所SDGs未来課、NPO法人チーム防人、壱岐高校探究交流 等

【**対馬市**】 対馬CAPPA、対馬市役所、対馬高校環境合同フィールドワーク 等

【**五島市**】 離島医療研究所、海岸藻場地、養鶏農家、五島市役所 等

【**佐世保市**】 ハウステンボス、森きらら、佐世保市役所、佐世保警察署、長崎国際大学 等

【**大村市**】 ガラスの海、子ども未来館、地域子育て支援センター、大村市役所 等

【**諫早市**】 諫早東特別支援学校、鎮西学院大学、創成館高校、Vファーレンロード 等

【**雲仙市**】 雲仙きのか本舗、小浜温泉バイナリー発電所、雲仙市役所 等

【**長崎市**】 協和機電、三菱重工業、九州教具、水産試験場、トイレの会、長崎市役所 等

3 国内・海外フィールドワーク

(2)海外フィールドワーク

- ・対象は中学2年生、高校1、2年生から選抜。
- ・コロナ禍によりオンラインを通じた交流（下記記載は一部）も広く実施。

[R4]

国・地域	対象	時期	形態	内容
カナダ	中2 高1	3月 下旬	現地	ホームステイや生徒間交流を通して国際感覚を養う
アメリカ (ニューヨーク)	高2	3月 月上旬	現地	①国連軍縮部から「高校生平和共同宣言」のフィードバック ②国連イベントで成果発表
アメリカ (ハワイ)	高2	3月 月下旬	現地	①University Laboratory Schoolと合同平和フィールドワーク ②ハワイ大学の環境・平和教育プログラムに参加
オランダ	高2	3月 下旬	現地	ライデン大学訪問や生徒間交流を通して国際教養を学ぶ
中国	高2	6月～ 10月	オン ライン	①長崎在中国総領事との交流事業、長崎の中国文化を学ぶ ②福建省培元中学校と文化交流、探究成果を相互発表
ケニア	高2	12月	オン ライン	ケニア人高校生との平和についての意見交換
ウクライナ	高2	11月	対面	(別府市) ウクライナ避難民へのインタビュー

目次

- 1 事業構想概要
- 2 カリキュラム開発
- 3 国内・海外フィールドワーク
- 4 高校生国際平和会議**
- 5 教員研修
- 6 研究開発成果の普及・評価
- 7 令和5年度以降の計画

4 高校生国際平和会議

(1) 高校生国際平和会議の概要

【期日】 令和5年7月28日（金）

【場所】 長崎ブリックホール

【対象】 国内外の高校生 ※拠点校の活動主体は高校3年生（現2年生）

【目的】 国内外の高校生が多様なテーマに基づき「平和」について協議するなかで、高度な学びの成果普及を図るとともに、国際平和を希求する姿勢を育む。

【内容】

①SDGs17の項目を下記4部門に分類し各部門別に**国際課題について協議。**

- ・『共生』（メインSDGs 10, 16, 17）
- ・『環境』（メインSDGs 6, 7, 12, 13, 14, 15）
- ・『社会』（メインSDGs 1, 2, 3, 4, 5, 11）
- ・『経済』（メインSDGs 8, 9）

②『**高校生平和共同宣言**』を国内外の高校生と多言語で作成し共同発表。



4 高校生国際平和会議

(2) 生徒主体の準備

- ・ 令和3年度に**国際会議実行委員会（希望生徒）を組織**。（1年次：59名）
令和4年度に参加人数が拡大。（2年次：88名）

- ・ 実行委員を①～⑤の5グループに分類し、リーダーを中心に組織化。

①『**高校生平和共同宣言**』チーム

②『**共生**』（メインSDGs 10, 16, 17）チーム

③『**環境**』（メインSDGs 6, 7, 12, 13, 14, 15）チーム

④『**社会**』（メインSDGs 1, 2, 3, 4, 5, 11）チーム

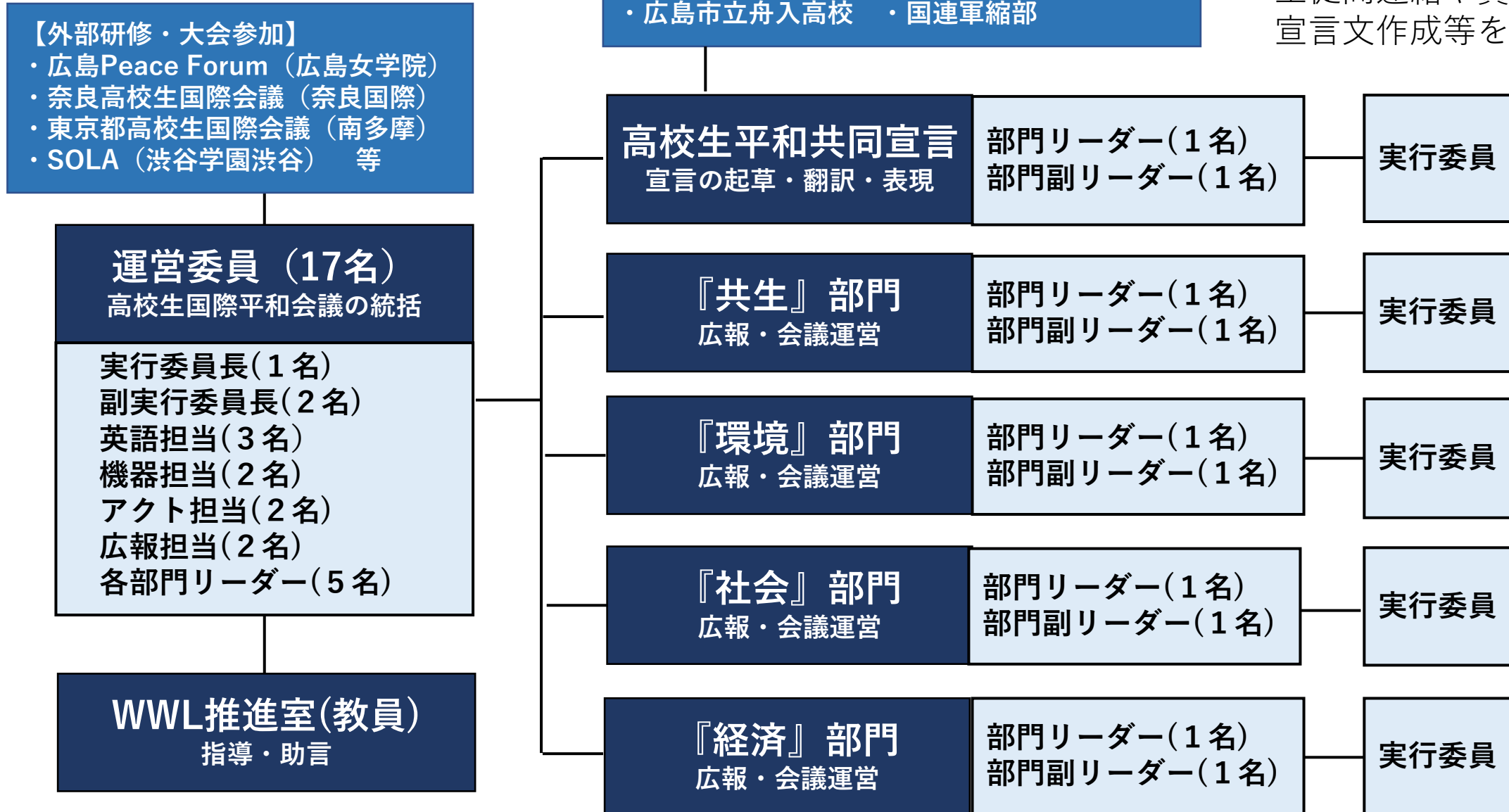
⑤『**経済**』（メインSDGs 8, 9）チーム



- ・ 実行委員と管理機関（拠点校）双方で、国内外の高校生へ広報を推進。
**アメリカ（ハワイ）、オランダ、中国（上海市・浙江省・福建省）、
韓国（釜山）、ベトナム（ハノイ）、タイ、ロシア、ウクライナ 等**

4 高校生国際平和会議

(3) 実行委員会の組織化



※Microsoft Teamsを活用してチームを作成。生徒間連絡や資料共有、宣言文作成等を実施

目次

- 1 事業構想概要
- 2 カリキュラム開発
- 3 国内・海外フィールドワーク
- 4 高校生国際平和会議
- 5 教員研修**
- 6 研究開発成果の普及・評価
- 7 令和5年度以降の計画

5 教員研修

(1) 探究学習の職員研修

…5月（問い立ての手法）と7月（調査手法）に、対面とオンラインのハイブリッド形式で実施。県内公立私立高校、特別支援学校19名が参加。



(2) 「探究型授業」の開発実践

① 公開授業月間

…6月と10月の年2回、協働的・創造的な思考力を育成する「探究型授業」を各教科で考案し実践。

② 九州地区合同研究会

…12月にベネッセコーポレーションと共同し開催。京都市立堀川高校から、校長と探究学習の主担当教員2名を招聘。拠点校による「探究型授業」の公開授業と、堀川高校の実践発表を行った。講演会是对面およびオンラインで実施し、全国から200名以上参加。

(3) 英語×ICT×探究セミナーの開催

…11月に関西学院千里国際高等部とベネッセコーポレーションと共同開催。

目次

- 1 事業構想概要
- 2 カリキュラム開発
- 3 国内・海外フィールドワーク
- 4 高校生国際平和会議
- 5 教員研修
- 6 研究開発成果の普及・評価**
- 7 令和5年度以降の計画

6 研究開発成果の普及・評価

(1)研究開発成果の普及

①WWL長崎フォーラム

…令和2年度指定より毎年7月、WWL協働校と共に対面とオンラインで開催。
探究成果発表とともにパネルディスカッションを実施した。

②WWL探究発表会

…令和5年3月22日（水）に長崎ブリックホールにて実施。
対面とオンライン（事前録画も可）のハイブリッド開催。
WWL協働校を中心とした国内外高校の探究成果を発表する。



③管理機関主催「成果報告会」

…2月14日(火)に長崎県庁にて実施。対面とともに県内各校へオンライン配信。

④公式SNS(Facebook、Instagram) 開設・ホームページ活用

⑤ワールド・ワイド・レポートの発行（月2回程度）

6 研究開発成果の普及・評価

(2)研究開発成果の評価 ①大会・コンテスト、社会実装（成果物作成）実績

年度	大会・コンテスト、社会実装（成果物作成）
R2	<ul style="list-style-type: none">・ミドルベリー国際大学院ジェームズマーティン不拡散研究センターCIF…ユース非核特使委属・第6回高校生鹿児島国際シンポジウム ポスターセッションの部…第2位・（成果物）化粧品会社すはだみらい研究所と協働し感染症予防ハンドケア用品を開発・販売
R3	<ul style="list-style-type: none">・ミドルベリー国際大学院ジェームズマーティン不拡散研究センターCIF…優秀賞、ユース非核特使委属・WWL 全国高校生フォーラム…生徒投票賞1位・静岡県高校生グローバル課題研究ポスターセッション大会…オーディエンス賞・ながさき未来デザイン高校生SDGs推進事業アントレプレナーシップゼミ…最優秀賞、優秀賞・ながさき未来デザイン高校生SDGs推進事業 長崎を元気にするアイデアコンテスト…奨励賞・山口大学知財創造実践甲子園…奨励賞・「夢・化学-21」委員会主催 化学グランプリ…金賞（長崎県初）
R4	<ul style="list-style-type: none">・日本水フォーラム 第4回アジア・太平洋水サミット…天皇陛下と懇談、代表発表・ミドルベリー国際大学院ジェームズマーティン不拡散研究センターCIF…ユース非核特使委属・株式会社トモノカイ主催 第1回「自由すぎる研究グランプリ」…イノベーション大賞（最優秀賞）・日本水産学会主催 全国高校生ポスター発表会…最優秀賞・衛星設計コンテスト実行委員会主催 第30回 衛星設計コンテスト…日本ロケット協会宙女賞・長崎県教育委員会主催 第31回長崎県英語スピーチコンテスト…優勝（九州大会出場）・ながさき未来デザイン高校生SDGs推進事業アントレプレナーシップゼミ…最優秀賞・（成果物）NPO法人みなとラボと協働し海ゴミ削減啓発の絵本を作成・出版

6 研究開発成果の普及・評価

(2)研究開発成果の評価

②自己評価（ルーブリック）の開発（令和2年度より実施）

【概要】 構想計画で示した「『世界の平和と公正』に貢献するイノベーティブなグローバル人材の育成」に必要な**7つのスキル・マインド**を測定する。

(スキル) ①**課題発見・解決力** ②**創造力** ③**情報分析・活用力** ④**自己表現力**
(マインド) ⑤**協働性** ⑥**学ぶ意欲** ⑦**地球市民性**

【目的】 ・ 自己の成長度を確認し、生徒の自己肯定感の醸成を図る。
・ 民間の外部評価テストと併せて分析し、生徒のメタ認知力の向上を図る。

【対象と時期】 ・ 対象は高校1～3学年。 ※3学年は5月のみ実施。
・ 5月（初期値）→12月（経過値）→3月（学年終了値）の3回実施

【実施内容】 ・ 7つのスキル・マインドを5段階で自己評価し、その理由を記述。
・ **S（創造）** ・ **A（活用Ⅱ）** ・ **B（活用Ⅰ）** ・ **C（習得）** ・ **D（未達成）**
※令和4年度より文面改訂、現在はD評価をなくし4段階で実施

6 研究開発成果の普及・評価 (2)②自己評価 (ルーブリック) の開発と実施

長崎東ルーブリック【令和4年度】

これまでの学校生活を振り返り、WWL7【学校設定目標】の到達度を自己評価しましょう。

1:自己評価(S~C) 2:自己評価の理由 3:特に力がついた活動(複数選択可):①授業・考査 ②清掃活動 ③探究 ④部活 ⑤行事 ⑥生徒会・係 ⑦学外の活動、その他(自由記述)

※令和4年度より
文面を改訂し、
4段階評価で実施

No	WWL7 【学校設定目標】	定義	評価項目				1:評価 S A B C	2:評価の理由	3:特に力が ついた活動
			S (創造)	A (活用II)	B (活用I)	C (習得)			
			『つくる』 知識・技能を生かし働かせ、 根拠を伴って創造性ある思 考や行動ができる。	『ととのえる』 習得した知識・技能を活用し て、根拠を伴った思考や行 動ができる。	『できる』 習得した知識・技能を活用し て、思考や行動ができる。	『わかる』 基礎となる知識・技能を習 得できる。			
思考力・判断力・表現力	1 課題発見・解決力	主体的に課題に向き合い発見・解決する力	自ら物事に対して、課題を発見することができ、 <u>妥当性があり、他分野との関係性を踏まえた解決策</u> を考えることができる。	自ら物事に対して、課題を発見することができ、 <u>妥当性のある解決策</u> を考えることができる。	自ら物事に対して、課題を発見することができ、 <u>解決策</u> を考えることができる。	自ら物事に対して、 <u>課題を発見</u> することができる。			
	2 創造力	学んだことを活用し、新たな価値を創造する力	知識・技能を生かし働かせ、 <u>妥当性があり、創造性のある発想</u> ができる。	学んだ知識・技能を活用して、 <u>妥当性のある発想</u> ができる。	学んだ知識・技能を活用して、 <u>自分なりの発想</u> ができる。	学んだ知識・技能を <u>なぞる</u> ことができる。			
	3 情報分析・活用力	物事を多角的に捉え、情報を選択・分析・活用する力	物事を多様な視点で捉え、複数の情報を論理的に分析し、それらを相互に関連付けて、自分の意見の根拠として使用できる。	物事を多様な視点で捉え、 <u>複数の情報を論理的に分析し、自分の意見の根拠として使用</u> できる。	物事を客観的な視点で捉え、 <u>真偽を意識して読み取った情報を、自分の意見の参考として使用</u> できる。	物事を客観的な視点で捉え、 <u>真偽を意識して正確な情報を読み取る</u> ことができる。			
	4 自己表現力	考え・意見を発信し、他者に影響を与える力	<u>表現において対話を意識し、他者も自己も考えが深まるよう、自らの考えや意見を聞かれた形で表現</u> することができる。	<u>他者との違いを踏まえ、自らの考えや意見を相手に伝えるよう工夫して表現</u> することができる。	自らの考えや意見を相手に <u>伝えるよう工夫して表現</u> することができる。	自らの <u>考えや意見を表現</u> することができる。			
学びに向かう力・人間性等	5 協働性	多様な人々と対話や議論を通じて協働する姿勢	<u>他者の良さを取り入れながら、自己の良さを発揮し、建設的な発言や行動</u> ができる。	<u>多様な考えを受け止め、自己の良さを発揮して、建設的な発言や行動</u> ができる。	<u>他者の考えを受け止めたうえで、建設的な発言や行動</u> ができる。	<u>他者の考えを受け止める</u> ことができる。			
	6 学ぶ意欲	学問に関心を持ち、自ら高度な学びに向かう姿勢	<u>学問を学ぶ意欲に目覚め、自分が将来学びたい学問分野とともに、幅広い教養を身に付ける努力</u> を続けることができる。	<u>自分が将来学びたい学問分野を自覚し、主体的に総合的な学力を身に付ける努力</u> を続けることができる。	自分の興味・関心と結びつきにくい内容であっても、 <u>主体性をもって学ぶ</u> ことができる。	自分の興味・関心のある内容について、 <u>意欲的に取り組む</u> ことができる。			
	7 地球市民性	世界平和を希求し、持続可能社会に貢献する姿勢	<u>多様な人と尊重し合う関係を築くとともに、社会課題について関心を持ち、その解決について勇気や行動する姿勢</u> を維持している。	<u>多様な人と親和的な関係を築くとともに、社会課題について関心を持ち、その解決について勇気や行動する姿勢</u> がある。	身近な人とともに、 <u>地域社会と親和的な関係を築く</u> ことができる。	身近な人(家族や親友)と <u>親和的な関係を築く</u> ことができる。			
知識・技能		生きて働く知識・技能の習得を目指し、すべての教育活動で身に付けていく ※教科学習等で求められる力量を発揮する							

6 研究開発成果の普及・評価 (2)②自己評価 (ループリック) の開発と実施

【自己評価の推移 (現行4段階評価) 令和4年度5月 (初期値) →12月 (経過値)】

①	課題発見・解決力			
	高1		高2	
	5月	12月	5月	12月
S	5%	9%	6%	13%
A	40%	58%	46%	54%
B	48%	32%	45%	32%
C	7%	1%	3%	1%

②	創造力			
	高1		高2	
	5月	12月	5月	12月
S	10%	13%	6%	15%
A	32%	41%	53%	63%
B	50%	42%	39%	19%
C	8%	4%	2%	2%

③	情報分析・活用力			
	高1		高2	
	5月	12月	5月	12月
S	8%	17%	6%	15%
A	39%	46%	53%	63%
B	43%	33%	39%	20%
C	11%	4%	2%	2%

④	自己表現力			
	高1		高2	
	5月	12月	5月	12月
S	10%	15%	5%	14%
A	32%	48%	47%	53%
B	47%	31%	44%	30%
C	12%	5%	3%	3%

⑤	協働性			
	高1		高2	
	5月	12月	5月	12月
S	17%	35%	22%	35%
A	43%	40%	52%	51%
B	35%	21%	25%	13%
C	6%	4%	1%	1%

⑥	学ぶ意欲			
	高1		高2	
	5月	12月	5月	12月
S	20%	21%	14%	16%
A	45%	43%	60%	59%
B	28%	28%	22%	20%
C	7%	8%	4%	5%

⑦	地球市民性			
	高1		高2	
	5月	12月	5月	12月
S	11%	16%	9%	15%
A	43%	52%	47%	47%
B	36%	27%	40%	36%
C	10%	6%	3%	2%

※ほぼ全ての項目で伸びが見られる。特に「協働性」の高さが顕著である。

6 研究開発成果の普及・評価 (2)②自己評価 (ルーブリック) の開発と実施

ひがしルーブリック 自己評価シート 年 組 番 氏 名 * 月 日 ()までにClassiiに入力
 活動内容: 1 授業・定期考査 2 清掃活動 3 探究活動 4 部活動 5 進路行事 6 生徒会・係活動 7 ガランティア 8 その他 (自由記述)

※令和4年度より
 文面を改訂し、
 4段階評価で実施
 (右図は令和2～3
 年度実施のもの)

No	WWL7	定義	評価項目					評価 (S-D)	評価の理由	力をつけた活動上の「活動内容」1～3から選択 (複数可)
			S (変革) 「かえる・かわる」	A (創造) 「つくる」	B (思考) 「できる」	C (習得) 「わかる」	D (未達成) —			
思考力・判断力・表現力	1	課題発見・解決力 主体的に課題に向き合い発見・解決する力	習得した知識・技能を活用し、課題可能性のある新たな課題を解決できる。	習得した知識・技能を活用し、新たな価値を創造できる。	習得した知識・技能を活用し、思考できる。	基礎となる知識・技能を習得している。	基礎となる知識・技能を習得していない。			
	2	創造力 学んだことを活用し、新たな価値を創造する力	各教科・科目や探究学習等の基礎的な内容が理解でき、それらの知識を活用しながら積極的に思考し、強制的で独自性があり課題可能性のある発想ができる。	各教科・科目や探究学習等の基礎的な内容が理解でき、それらの知識を活用しながら積極的に思考し、強制的で独自性のある発想ができる。	各教科・科目や探究学習等の基礎的な内容が理解でき、それらの知識を活用しながら積極的に思考できる。	各教科・科目や探究学習等の基礎的な内容を理解できる。	各教科・科目や探究学習等の基礎的な内容を理解できない。			
	3	情報分析・活用能力 物事を多角的に捉え、情報を選択・分析・活用する力	物事を多角的に捉え、複数の資料(文献・図表・グラフ等)から情報を読み取り、それらを関連付けて課題可能性のある自らの提案を適切に活用できる。	物事を多角的に捉えることができ、複数の資料(文献・図表・図表・グラフ等)から情報を読み取り、それらを関連付けて自らの提案として適切に活用できる。	物事象の因果関係が理解でき、複数の資料(文献・図表・グラフ等)から情報を読み取り、それらを関連付けて一つの結論を導き出すことができる。	物事象の因果関係が理解でき、複数の資料(文献・図表・図表・グラフ等)から情報を読み取ることができる。	物事象の因果関係を理解できず、複数の資料(文献・図表・図表・グラフ等)から情報を読み取ることができない。			
	4	自己表現力 考え・意見を発信し、他者に影響を与える力	他者の意見を読み解き、相手の立場を尊重した適切な表現で自らの考えや意見を発信し、他者の行動に良い変化を起こすことができる。	他者の意見を読み解き、相手の立場を尊重した適切な表現で自らの考えや意見を発信し、他者の考え方に良い変化を起こすことができる。	他者の意見を受け入れ、相手の立場しやすいように自分の考えや意見を発信することができる。	他者の意見を受け入れ、自分の考えや意見を発信することができる。	他者の意見を受け入れることはできるが、自分の意見を他者に発信することができない。			
学びに向かう力・人間性等	5	協働性 多様な人々と対話や議論を通じて協働する姿勢	協働の大切さを理解して、自分と価値観が大きく異なる他者とも、共通の課題解決のために共に行動し、課題可能性のある解決策を提出できる。	協働の大切さを理解して、自分と価値観が大きく異なる他者とも、共通の課題解決のために、共に行動し、解決策を提出できる。	協働の大切さを理解して、他者の意見を尊重しながら、共に行動することができる。	協働の大切さを理解して、他者と共に行動することができる。	協働の大切さを理解することが難しく、他者と共に行動することができない。			
	6	学ぶ意欲 学習に関心を持ち、自ら進んで学ぶに向かう姿勢	各教科・科目や探究学習等について真摯に学び、学校の履修内容以外に学問的興味のある深い探究的な学びを自ら行い、主体的な探究活動のネットワークを構築している。	各教科・科目や探究学習等について真摯に学んでおり、学校で履修する学習以外に、学問的興味のある探究的な学びを自ら行っている。	各教科・科目や探究学習等について学ぶ意欲があり、与えられた課題に取り組むことに加え、各教科について学習などの学習を自ら行っている。	各教科・科目や探究学習等について学ぶ意欲があり、与えられた課題に取り組むことができる。	各教科・科目や探究学習等について学ぶ意欲がない。			
7	地球市民性 世界平和を求め、持続可能な社会に貢献する姿勢	世界平和や持続可能な社会について関心があり、それらを実現するために継続して行動しており、その普及に努めている。	世界平和や持続可能な社会について関心があり、それらを実現するために継続して行動している。	世界平和や持続可能な社会について関心があり、それらを実現のために機会があれば行動している。	世界平和や持続可能な社会について関心がある。	世界平和や持続可能な社会について関心がない。				

知識・技能 一全てを網羅する力として整理

6 研究開発成果の普及・評価 (2)②自己評価 (ルーブリック) の開発と実施

【自己評価の学年間推移 (改訂前5段階評価) 令和2年度5月→令和3年度5月 実施分 (初期値)】

①	課題発見・解決力			
	高2		高3	
	R2	R3	R2	R3
	1年次	2年次	2年次	3年次
S	0%	5%	4%	13%
A	33%	60%	36%	64%
B	43%	31%	45%	21%
C	23%	4%	14%	1%
D	1%	0%	0%	0%

②	創造力			
	高2		高3	
	R2	R3	R2	R3
	1年次	2年次	2年次	3年次
S	2%	3%	5%	7%
A	21%	40%	23%	44%
B	48%	46%	51%	43%
C	26%	8%	21%	6%
D	3%	2%	1%	0%

③	情報分析・活用力			
	高2		高3	
	R2	R3	R2	R3
	1年次	2年次	2年次	3年次
S	5%	5%	3%	11%
A	23%	50%	27%	55%
B	44%	34%	48%	31%
C	23%	8%	20%	3%
D	4%	1%	2%	1%

④	自己表現力			
	高2		高3	
	R2	R3	R2	R3
	1年次	2年次	2年次	3年次
S	8%	11%	6%	14%
A	30%	44%	25%	39%
B	43%	40%	53%	40%
C	17%	4%	12%	5%
D	3%	0%	4%	2%

⑤	協働性			
	高2		高3	
	R2	R3	R2	R3
	1年次	2年次	2年次	3年次
S	10%	13%	12%	27%
A	43%	55%	44%	48%
B	42%	27%	37%	22%
C	5%	4%	6%	1%
D	0%	0%	2%	0%

⑥	学ぶ意欲			
	高2		高3	
	R2	R3	R2	R3
	1年次	2年次	2年次	3年次
S	2%	5%	5%	5%
A	14%	27%	17%	37%
B	56%	52%	48%	54%
C	28%	14%	28%	3%
D	1%	1%	2%	1%

⑦	地球市民性			
	高2		高3	
	R2	R3	R2	R3
	1年次	2年次	2年次	3年次
S	5%	7%	7%	9%
A	13%	27%	17%	27%
B	45%	44%	41%	37%
C	36%	20%	32%	26%
D	0%	0%	3%	1%

※すべての項目で伸びが見られる。現行の4段階評価と同じく、特に「協働性」の高さが顕著である。

6 研究開発成果の普及・評価

(2)研究開発成果の評価

③三菱みらい育成財団自己評価アンケート（令和2年度より実施）

【概要】三菱みらい育成財団『心のエンジンを駆動させるプログラム』の自己評価アンケート（本校は令和2年度よりWWLと併せて指定）

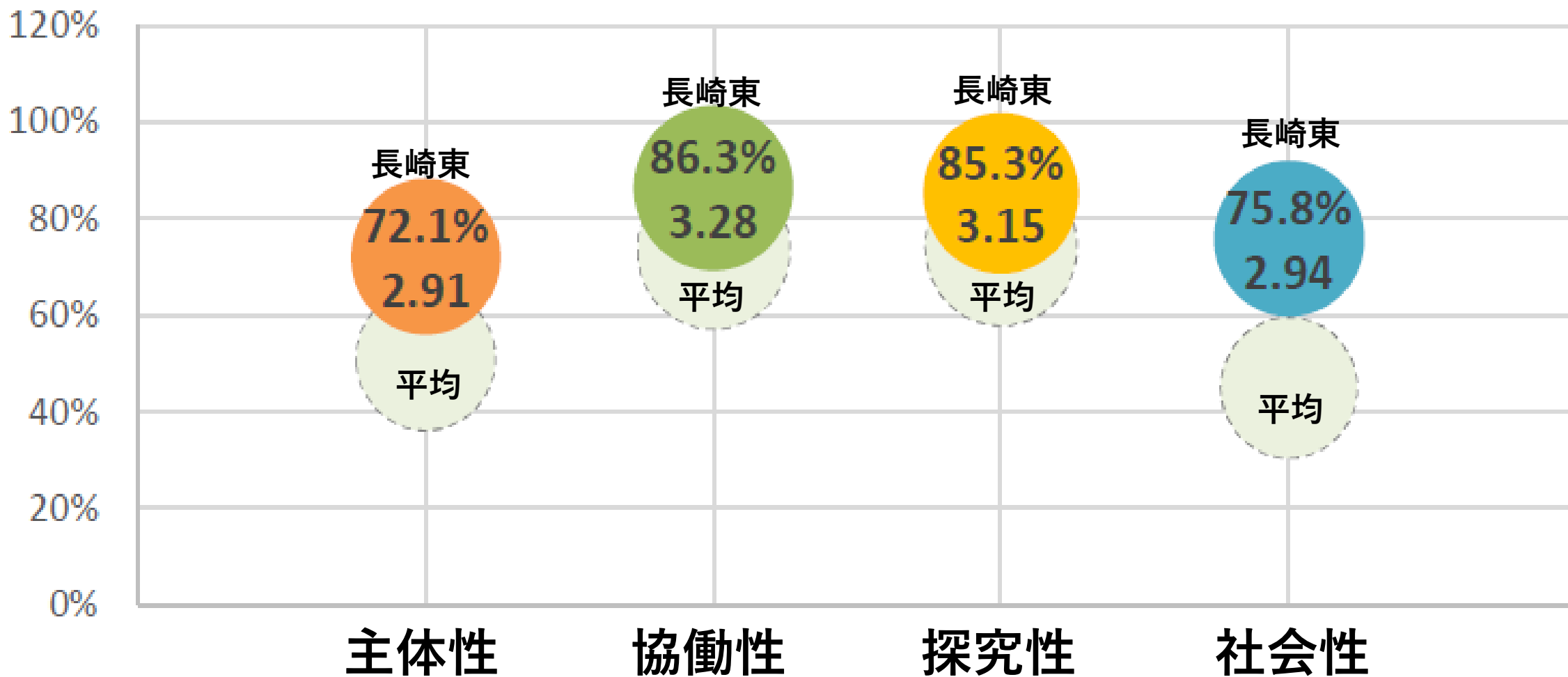
【目的】事業に対する自己評価を行い、その到達度を計る。

【対象と時期】 ・対象は高校1～3年生。
・年1回、6月に実施。

【内容】生徒の**主体性・協働性・探究性・社会性**について評価。
※**同プログラムに参加している全参加校の平均値と比較が可能。**

【自己評価の全国平均値との差

令和4年度6月実施分】



※全項目で全国平均以上。
特に全国平均との比較では、
主体性・社会性の高さが顕著である。

● 他地域 ● 自校

6 研究開発成果の普及・評価 (2)③三菱みらい育成財団自己評価アンケート

【自己評価の小項目過年度比・全国比（抜粋）】

● 10pt以上の増加 ● 0~10ptの増加 ● 減少

	全校		
	全体	昨年度との差	他地域との差
	割合(%)	差(pt)	差(pt)
主体性 に関する学習活動	72.1%	● 4.57	● 21.01
5 自主的に調べものや取材を行う	88.7%	● 2.21	● 16.47
6 学校外のいろいろな人に話を聞きに行く	55.5%	● 6.94	● 25.56
協働性 に関する学習活動	86.3%	● 1.20	● 12.87
7 グループで協力しながら学習や調べものを行う	94.3%	● 1.31	● 12.78
8 活動、学習内容について生徒同士で話し合う	96.3%	● 0.98	● 8.21
9 活動、学習内容について大人（教員や地域の大人）と話し合う	68.3%	● 1.30	● 17.62
探究性 に関する学習活動	85.3%	● 1.32	● 11.16
10 自分の考えを文章や図表にまとめる	76.8%	● -0.05	● 4.13
11 話し合った内容をまとめる	91.8%	● 2.23	● 12.27
12 活動、学習のまとめを発表する	87.0%	● 1.77	● 15.48
13 生徒同士で活動、学習の振り返りを行う	85.3%	● 1.34	● 12.76
社会性 に関する学習活動	75.8%	● 2.55	● 30.82
14 地域の魅力や資源について考える	65.3%	● -4.16	● 27.90
15 地域の課題の解決方法について考える	77.3%	● 3.87	● 36.30
16 日本や世界の課題の解決方法について考える	84.8%	● 7.95	● 28.28

6 研究開発成果の普及・評価

(2)研究開発成果の評価

④GPS-Academic テスト（平成29年度より実施）

【概要】 ベネッセコーポレーションが実施している思考力テスト。

【目的】 思考力を客観評価し、自己評価（ルーブリック等）と併せ、メタ認知能力の向上を図る。

【対象と時期】 ・対象は高1・2学年。
・年1回、12月に実施。

【内容】 ・マーク式と記述式の2つのタイプのテストを実施。
・測定項目は下記の3つ。

批判的思考力（情報を抽出し吟味、論理的に組み立てて表現する）

協働的思考力（他者との共通点・違いを理解、社会に参画し人と関わる）

創造的思考力（情報の関連付け・類推、問題を見出し解決策を生み出す）

6 研究開発成果の普及と評価 (2)④GPS-Academic テスト

【協働的思考力の過年度比】

高 1						
	H29	H30	R1	R2	R3	R4
S	1%	0%	0%	0%	5%	2%
A	23%	23%	36%	39%	45%	47%
SA計	24%	23%	36%	39%	50%	49%
B	64%	68%	60%	52%	46%	46%
C	13%	9%	4%	9%	3%	5%
D	0%	0%	0%	0%	0%	0%

高 2 国際科						
	H29	H30	R1	R2	R3	R4
S	0%	0%	2%	12%	14%	7%
A	40%	32%	61%	55%	66%	73%
SA計	40%	32%	64%	67%	80%	80%
B	58%	64%	34%	31%	20%	20%
C	3%	6%	3%	3%	0%	5%
D	0%	0%	0%	0%	0%	0%

高 2 普通科						
	H29	H30	R1	R2	R3	R4
S	0%	0%	0%	1%	4%	3%
A	29%	18%	34%	40%	49%	51%
SA計	24%	23%	36%	39%	53%	54%
B	64%	70%	56%	50%	42%	43%
C	7%	9%	10%	9%	5%	3%
D	0%	0%	0%	0%	0%	0%

※他者との共通点・違いを理解し、社会に参画し人と関わろうとする『協働的思考力』の伸長が著しい。

※本校作成のルーブリックをはじめとする各種アンケートにおいて「協働性」「社会性」の高さが顕著であることから、自己評価の値と外部評価の値には整合性があり、生徒のメタ認知能力の高さを顕在化できた。

6 研究開発成果の普及・評価 (2)研究開発成果の評価 ⑤各種アンケート

【WWL生徒アンケート過年度比較（抜粋）】 令和3年9月→令和4年1月→令和4年6月 ※増減は前回からの比較

分類	質問項目	R 4 /6	R4/1	R3/9	増減
学校全体への波及効果	①WWL事業への満足度（5段階4以上）	72.9%	70.5%	—	+2.4
	②授業の満足度（5段階4以上）	80.9%	81.0%	83.3%	-0.1
	③教員との関係性への満足度（5段階4以上）	78.8%	70.1%	75.9%	+8.7
	④学校生活への満足度（5段階4以上）	79.2%	74.1%	76.7%	+5.1
生徒の変容	①留学や海外に行くことに前向きな生徒が多い（5段階3以上）	85.4%	84.8%	81.6%	+0.6
	②海外の人との交流に積極的な生徒が多い（オンライン含む）（5段階3以上）	86.5%	85.0%	79.5%	+1.5
	③学校以外の人との交流（地域や企業など）に積極的な生徒が多い（5段階3以上）	89.2%	90.2%	88.0%	-1.0
海外への視点	①海外の大学・大学院で学んでみたい（5段階3以上）	47.1%	38.5%	41.5%	+8.6
	②海外で働くなど、仕事で国際的に活躍したい（5段階3以上）	51.3%	42.5%	45.9%	+8.8
	③国際的な課題を解決する仕事がしたい（5段階3以上）	56.8%	46.6%	51.5%	+10.2
協働性	①同じ人間として他の文化の人々を尊重する（5段階3以上）	98.9%	98.7%	99.1%	+0.2
	②世界の一部の人の暮らしの劣悪な条件に、何かしなければと責任を感じる（5段階4以上）	86.9%	84.0%	82.7%	+2.9
	③相手との協力関係が築くように心がける（5段階3以上）	98.3%	98.5%	98.3%	-0.2
	④反対意見にも耳を傾ける（5段階3以上）	97.6%	98.3%	98.3%	-0.7

【生徒・職員 学校評価 過年度比較（抜粋）】 令和3年1月→令和4年1月→令和5年1月 ※増減は前回からの比較

質問項目	R5/1	R4/1	R3/1	増減
【生徒：学校全体への波及効果】私は、学校の授業や学習指導に満足している（4段階3以上）	91.4%	89.7%	92.9%	+1.7
【生徒：海外への視点】私は、海外語学研修や留学を積極的に行った（同上）	16.9%	17.3%	29.8%	-0.4
【職員：学校全体への波及効果】長崎東は、学校全体で授業改善や指導力の向上に取り組んでいる（同上）	100.0%	95.8%	96.1%	+4.2

目次

- 1 事業構想概要
- 2 カリキュラム開発
- 3 国内・海外フィールドワーク
- 4 高校生国際平和会議
- 5 教員研修
- 6 研究開発成果の普及・評価
- 7 令和5年度以降の計画**

7 令和5年度以降の計画

(1)カリキュラム開発

- ・長崎大学の高大接続を推進するとともに、**広島大学WWLアドバンストプレイスメントに参画**する。
- ・生徒自身の自走による探究活動を推進し、『**探究ピア・サポート**』の体系化や**国際会議実行委員会**の生徒による**組織的な継承**など、上級生が下級生を導いていく体制づくりを行う。
- ・**University Laboratory Schoolと共同平和探究を実施**する等、**海外高校との共同探究を推進**する。

(2)海外フィールドワーク

- ・**海外はベトナム（ハノイ市）を実施**する。長崎大学高度感染症研究センターや同大学熱帯医学研究所ベトナムプロジェクト拠点と連携し、農村地区での下痢症感染症等について現地調査を実施する。
- ・マラリア、デング熱、COVID-19等に関する専門性が高い学びを、世界保健機関（WHO）や、ハノイ国立衛生疫学研究所（NIHE）と連携して実施する。

(3)高校生国際平和会議

- ・**生徒主体の実施運営を推進**する。国内外の高校生の招聘を成功させ、事前研修を充実させる。
- ・University Laboratory Schoolの生徒と会議前日に国内平和フィールドワークを実施する。

(4)教員研修

- ・「**探究型授業**」の開発をすべての教科で実践する。引き続き**ベネッセコーポレーションと共同研究会**を企画し「**探究型授業**」をテーマとした**研究授業を実施**し、九州地区の教員へ参加を案内する。

(5)研究開発成果の普及・評価

- ・7月の高校生国際平和会議、3月のWWL探究発表会を**継続可能なものとして成功**させる。
- ・生徒の自己評価や客観評価をもとに**個人分析表を作成**し、生徒のキャリア教育を支援する。

WWLコンソーシアム構築支援事業 令和4年度 成果報告会

ご清聴、
誠にありがとうございました。

